

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	国宝土偶絵本プロジェクト
事業主体 (連絡先)	縄文どんぐりカフェ
事業区分	教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	664,139円 (うち支援金: 527,000円)

事業内容

八ヶ岳西麓と霧ヶ峰南麓には、豊かな自然環境と国宝土偶2体が出土した縄文遺跡がある。その2つの国宝土偶が出土した背景を絵本にするプロジェクトを実施した。

①絵本制作 5月～12月

- ・事前勉強会『2つの国宝土偶と黒曜石』
- ・『縄文のビーナス出土遺跡の周りにある里山を歩いてみよう』
- ・絵本完成記念講演会 2024.1.8

『縄文のビーナスの造形美を語る』

②土偶パンづくり 8月と11月

- ・『親子土偶パンづくり教室』

③日本遺産の遺跡見学とそこから黒曜石運搬ルートを歩いてみる 10月

- ・『駒形遺跡から黒曜石の道を歩く』



【土偶パン作り】

【目標・ねらい】

- ①絵本 300部を印刷し配布して、多くの人に何故国宝土偶が2体も出土したのかを知ってもらう。
- ②土偶パン作りによって、子どもたちにも国宝土偶への関心を高めるってもらう
- ③周知度の低い『駒形遺跡』に行ってもらおう

事業効果

- ①・黒曜石原産地が霧ヶ峰の南麓にあり、国宝土偶出土地と近い位置にあることを事前勉強会で知ることができた。
 - ・棚畑遺跡の近くにある「吉田山」を歩き、当時の自然環境が想像できた
 - ・『縄文のビーナス』の造形美の話をもつ縄文研究者ではなく、美術家から話を聞いた。デザイナーの観点から話されたので、縄文のビーナスは、国宝土偶の頂点にあたる造形美であることを改めて認識した。
 - ・完成した絵本『2つの国宝土偶と黒曜石』を子どもたちを始め、一般の方に周知するために茅野市教委に寄贈をし、各施設等で活用されている。
- ②次代をになう、子どもたちに国宝土偶の事を知ってもらえる機会の創出と、縄文時代に食べられていた食物を味わってもらえた。
- ③遺跡巡りは、好評であった。特に『駒形遺跡』は、地元でもあまり知られていないが、参加者はこの遺跡の景観やそこから、当時の縄文人が霧ヶ峰まで、険しい道を歩いて黒曜石を採取に行った行程を、歩いて感じることができ、素晴らしい景観にも感激する人たちが多かった。

※自己評価【A】

【理由】

『絵本の披露と縄文のビーナスを語る』講演会が当事業の集大成であったが、参加者は100名以上を超え、制作した絵本にも大勢の方々が興味をもってもらえた

今後の取り組み

①八ヶ岳西麓と霧ヶ峰南麓に出土した国宝土偶2体について、絵本の内容を紹介しながら、日本遺産の構成材の大きなアピールポイントとしても、多くの人たちにこの国宝土偶が作られた自然環境や黒曜石について、もっと知ってもらいたい。そのためには、国宝土偶が出土した遺跡を中心に周辺を歩いてみたり、背景にある八ヶ岳の成り立ちなどについて、地元の研究者に解説してもらいながら、理解を深め、縄文時代に思いを馳せ、現代と縄文をつなげていきたい。

②八ヶ岳西麓と霧ヶ峰南麓の豊かな自然環境がもたらした自然の恵みを、実際に加工し、自然の中で味わってもらい、心身ともに豊かな心になってもらう機会をつくりたい。

③制作をした絵本を利活用したい。観光客にもアピールしてみたい(宿泊施設【しんゆ】では書籍を読むスペースがある)

また、ちの旅のしている「ヤマウラスティ」に訪れる外国人向けに英訳した絵本の読み聞かせをアクティビティの1つにしよう。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある